

明日の塩飽を 考える

最終回

「明日の塩飽を考える」最終回は、塩飽を熱い気持ちで盛り上げてくれている、四国夢中人の尾崎美恵さんとHOTサンダルプロジェクトの正木かつみさんに、これからの活動について寄稿いただきました。また、市民活動推進課 山田離島振興室長に、今後の「塩飽」振興の取り組みなどについてインタビューしました。



NPO「四国夢中人」代表 尾崎 美恵さん

限界集落をリスクとしない

風光明媚で温暖な自然に恵まれた塩飽は、古くは塩飽水軍として日本の海上交通を牽引してきました。しかし、手島の場合、平均年齢約80歳、人口約20人という厳しい現実の中でも、島の人たちは海の幸、山の幸に恵まれ自給自足をしています。道端には四季折々の



京都大学の学生も「香川本鷹」の栽培体験

花が咲き貴重な島の伝統や文化が守り引き継がれています。さて、私たちNPO「四国夢中人」では塩飽諸島活性化プロジェクトとして、京都大学農学部や島の学生や島の人たちと一緒にいろいろな活動をして

います。今年3月には香川本鷹栽培体験、4月には生えすぎて困っている竹林伐採、7月には島の遍路道の清掃をしました。学生たちは、自動販売機が1台しかない手島を「癒やし島」として、SNSを使って発信しています。今後、私たちは宿泊施設が完備された手島自然教育センターを、都会の生活に疲れた人やバックパッカー、外国人旅行者だけでなく、大学の合宿や企業の研修先としても呼びかけていく予定です。そして手島を癒やし系の長期滞在型モデルアイランドにしていきたいと思っています。

「塩飽丸」マストは高く 人びとの英知を集めて出帆



塩飽の島にアトリエを持ちたい

島の活性化と若き芸術家の育成を目的としてスタートした「HOTサンダルプロジェクト」は、今年で6年目を迎えました。美術大生が夏の1か月間、本島、広島、手島、小手島に滞在して島の人たちと交流しながら、制作活動を行います。今年のワークショップでは、浜で



HOTサンダルプロジェクト会長 正木かつみさん

拾った石や貝殻などで絵の具を作り、その絵の具で絵を描きました。静かな瀬戸内の多島美、吹く風のやさしさに新しい感性がふくらみます。完成作品は、毎年生涯学習センターで多くの人に見ていただいています。今年2月には、5周年として、東京銀座洋協ホールで「HOTサンダルプロジェクト展 in 東京」も開きました。6年間で参加した美大生は、150人を超えました。塩飽の島々に魅了され就職後も再び島を訪ねたり、「島にアトリエを持ちたい」と願う卒業生が年々増え、すでに2人が移住しています。

島での生活には、いろいろ思い通りにならない課題もありますが、今後も移住の支援を拡大し、島の活性化につなげていきたいと思っています。最後に、毎年温かく学生たちを受け入れてくれる島の人たちに心から感謝しています。



交流しながら作品制作

欠かせない

IT環境の整備

—本紙の特集「塩飽の明日を考える」で、この夏、塩飽の島々を歩き、島の人たちと話をしました。多くの人が、インターネットなどのIT環境整備を強く望んでいました。

—山田離島振興室長（以下略）
今年5月に、IT環境について、島の人たちや子どもたち、島を訪れた人たちにアンケート調査を行いました。結果は、通信速度や容量、料金などに不便を感じているという意見が多く、そのためか、光回線などの整備を望む声や、子どもたちもIT環境の向上を望んでいることがわかりました。また

来島者は公衆Wi-Fiの設置を望んでいます。本島と広島に引かれている海底光ケーブルを使い、島民の皆さんへ高速通信サービスの提供、また、来島者などに観光向けの公衆無線LANを検討しています。IT環境整備が進めば、島での仕事の選択肢が広がることから、移住・定住の前提条件となる場合もあり、できるだけ早い整備をと考えています。

世界へ塩飽の魅力発信

—塩飽は、景観や自然のみならず、歴史と文化の宝庫。島の魅力を国内外に発信したいという声もたくさん聞きました。

—そのとおりです。塩飽では、島の特徴を生かした伝統行事や新しい観光資源の創出が行われています。例えば、小手島では島の人たちが植えた、一本の木に紅白の花が咲く珍しい「源平桃」が「塩飽」に春の到来を告げます。また、手島では夏になると有志の手で植えられた「ひまわり畑」が、来島者に感動を与えています。そして、手島では今、島の歴史をたどる写真展が開かれています。このように様々な情報を総合的に、適時に発信すればPR効果も上がり、来島者の増加にもつながっていくと思います。そこで「塩飽」に関する情報



牛島で行われている写真展のポスター

が集約されたホームページの作成や、島のイベントを発信できるSNSの利用を検討していきます。

移住・定住を促進 空き家利用で補助金も

—塩飽に移住や定住を考えたり、実際に住んでいる人もいると聞きました。

—そうなんです。大変うれしいことです。市では、移住・定住を促進するため、IT環境の整備のほか、離島航路の維持や医療体制の確保など、離島の地理的に不利な環境を緩和していきます。また、市は島の空き家を、移住者用の賃貸住宅や島暮らし体験住宅にリフォームする工事費用を補助する制度を、平成27年度から設

アートの島おこしを 世界の人たちと

—塩飽を歩きますと、あちこちで面白いモニュメントや道しるべなどに出会います。ほっとすると同時に非日常の空気に癒やされます。

—次回「瀬戸内国際芸術祭」は、平成31年、塩飽としては3回目の開催で、引き続き本島が会場です。回を重ねるごとに、島の人たちと芸術家、来島者らとの交流が深まり、参加から参画へと発展しています。

—また、毎年8月には「HOTサンダルプロジェクト」が行われ、参加した学生が、体験を通じた島の情報を発信してくれています。これらアートを切り口とした取り組みは、芸術や観光振興にとどまらず、島のにぎわいづくりや、交流人口の拡大に効果があります。そして、島への移住やインバウンドにつながるなど、「世界の宝石」と称された瀬戸内海と調和して、相乗的な効果をもたらすことを期待します。

—ありがとうございます。
(聞き手 広報担当 中年明)



源平桃(小手島)